

第1部

総論

第1章

計画の策定について

- 1 富山市高齢者総合福祉プランの位置付け
- 2 計画期間について

第2章

計画の考え方について

- 1 基本理念
- 2 目標達成のための施策(4つの施策の柱)
- 3 計画策定に係る留意点

第3章

高齢者を取り巻く状況と将来推計について

- 1 高齢者の不安や生きがいについて
- 2 壮年期からの健康づくりについて
- 3 介護保険施策の充実について
- 4 高齢化等の状況について

1 富山市高齢者総合福祉プランの位置付け

本市では老人福祉法及び介護保険法に基づき、平成 12 年度より高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画を一体のものとして「富山市高齢者総合福祉プラン」を策定しています。

(1) 高齢者保健福祉計画について

長寿社会にふさわしい高齢者保健福祉をいかに構築するかという重要な課題に対して、本市が目指すべき基本的な政策目標を定め、その実現に向かって取り組むべき施策を明らかにすることを主な趣旨とするもので、全ての高齢者を対象とした保健福祉全般に関する総合計画です。

(2) 介護保険事業計画について

介護保険法に基づき、介護保険事業における保険給付の円滑な実施が確保されるように、国の基本方針に沿って策定する実施計画であり、地域の実情に応じたサービス提供体制の確保と地域密着型サービスや地域支援事業を計画的に進めるための基本計画です。

高齢者総合福祉プラン

高齢者保健福祉計画

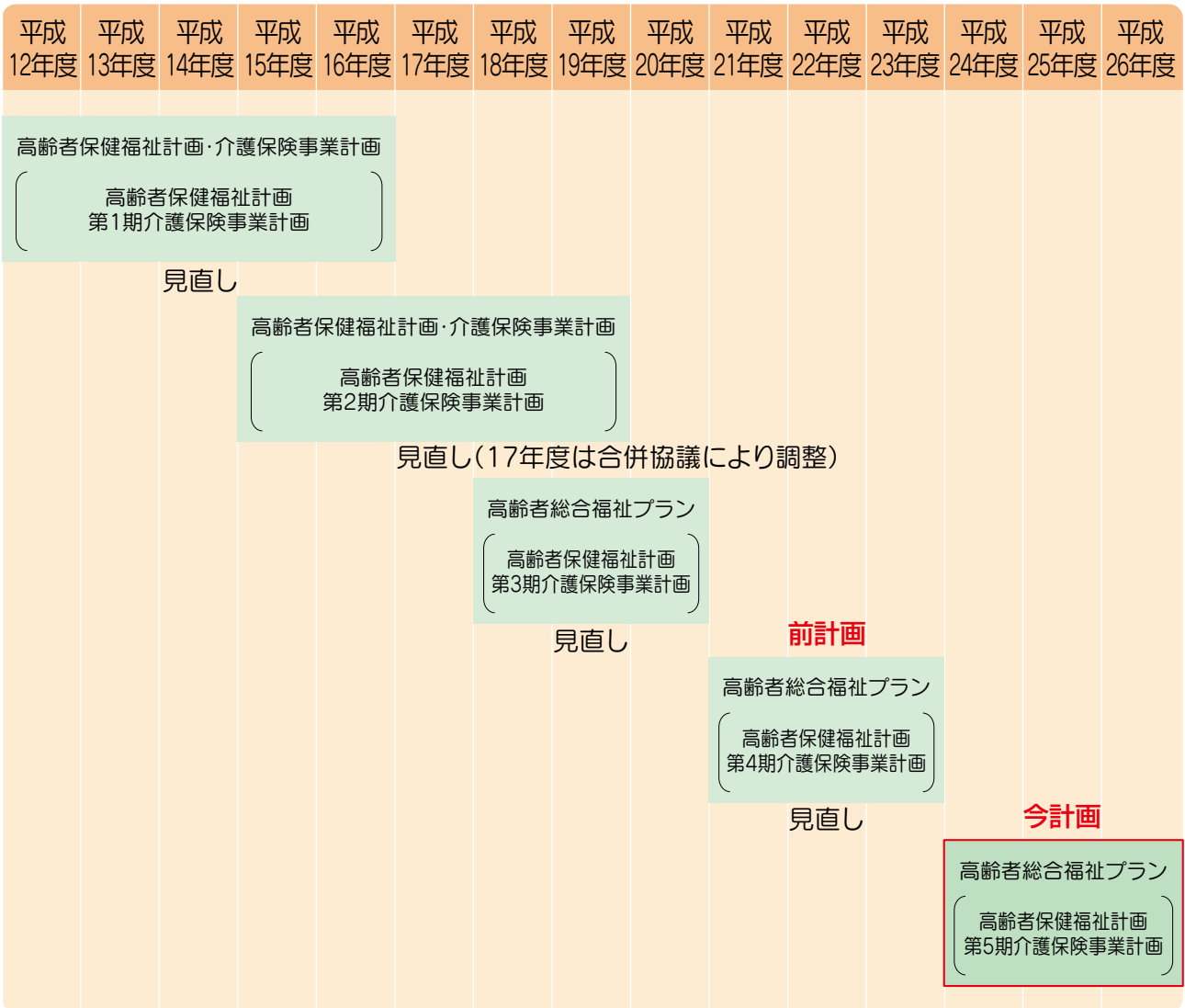
高齢者保健福祉サービス

介護保険事業計画

介護保険サービス

2 計画期間について

第3期計画からは、刻々と変化する社会情勢に柔軟に対応できるよう、3年間を期間として策定しており、今回の第5期計画では、前計画を基本的に踏襲し、平成24年度から26年度までの計画を策定します。



1 基本理念

人口が減少傾向に転じる中、本市では、高齢者の方々がいつまでも健康で、人と人とのふれあい・支え合いを大切にしながら、それぞれの地域でいきいきとした生活を送ることができるよう、「みんなでつくる、ぬくもりのある福祉のまち」を基本理念とし、市民相互の支えあいと市民・企業等・行政との協働による豊かな地域社会の構築を目指します。

2 目標達成のための施策（4つの施策の柱）

1 活動的で、活力に満ちた高齢社会づくり

元気で意欲のある高齢者が、知識や経験を活かし、活動的に、社会の担い手として地域貢献できるための施策を推進します。

- ①社会参加と生きがいづくりの推進
- ②高齢者に関する情報提供の推進
- ③福祉マインドの醸成
- ④世代間交流の推進

2 安心・安全を実感できる、人にやさしい生活環境づくり

住み慣れた地域で、安心して、安全に、快適な生活を送ることができる環境の整備を図ります。

- ①コンパクトなまちづくりと住環境の整備
- ②バリアフリーの推進と潤いのある生活空間の整備
- ③総合的な安全対策の強化

3 健やかな暮らしを支える心と体づくり

いつまでも健やかな生活を送るための心と体づくりや疾病予防、介護予防施策の推進に努めます。

- ①壮年期からの健康づくり
- ②疾病の重症化防止
- ③高齢者及び家族介護者の心の健康づくりの推進
- ④介護予防の推進
- ⑤健康づくりの基盤整備
- ⑥地域医療の推進

4 一人ひとりの個性や尊厳、自立を支える地域社会づくり

要介護状態や認知症になっても、可能な限り住み慣れた地域や家庭で、自立した生活を送ることができるための市民と行政の協働による施策の推進に努めます。

- ①地域包括ケアの推進
- ②認知症高齢者対策の推進
- ③高齢者等の権利擁護の推進
- ④介護保険制度の適正運営の推進
- ⑤介護サービスの基盤整備

3 計画策定に係る留意点

(1) 計画の策定にあたっては、前計画の考え方を基本的に踏襲し、社会情勢等の変化や本市の現状、課題、地域懇談会等で出された意見等を踏まえながら、次の各項目等を勘案して、基本理念・政策目標・重要課題への対応を検討しました。

- ① 市政運営の基本理念・基本的考え方
- ② 関係計画との整合性及び連携
- ③ 現計画の実施状況
- ④ 高齢者実態調査の結果
- ⑤ 国の基本方針・基本指針

(2) 施策の立案にあたっては、具体的には、次のような留意点に沿って、検討を行いました。

【高齢者保健福祉計画】

- ① 高齢者が積極的に社会参加しやすい環境づくり
- ② 在宅福祉サービス事業の推進
- ③ 予防重視型福祉施策の推進と地域活動との連携
- ④ 多様なライフスタイルを可能にする高齢期の自立支援（人権擁護、世代間交流など）
- ⑤ 健康でいきいきとした生活を送るための心と体づくり
- ⑥ 住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくり
- ⑦ 認知症高齢者対策の推進
- ⑧ 高齢者及び家族介護者の心の健康づくりの推進

【介護保険事業計画】

- ① サービス量の適切な見込み
- ② 介護関連施設の整備
- ③ 給付適正化事業の推進
- ④ 「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取り組み
- ⑤ 認知症支援策の充実
- ⑥ 在宅医療の推進
- ⑦ 高齢者に相応しい住まいの計画的な整備
- ⑧ 見守りや配食などの多様な生活支援サービス等への取り組み

(3) 各章ごとの具体的な見直し点は次のとおりです。

第1章 活動的で、活力に満ちた高齢社会づくり

現在の施策を踏襲し、社会情勢等の変化に対応し、さらなるサービスの充実を図ります。

第2章 安心・安全を実感できる、人にやさしい生活環境づくり

2-① コンパクトなまちづくりと住環境の整備

平成23年4月に高齢者住まい法が改正され、高齢者の居住の安定を確保するため、バリアフリー構造等を有し、介護・医療と連携して、高齢者を支援するサービスを提供する「サービス付き高齢者向け住宅」の登録制度の創設等が行われました。

市では、高齢者の住まいの確保とコンパクトなまちづくりの推進の観点から、高齢者が安心して暮らすことができるまちなかや公共交通の利便性の高い区域での整備促進を図ります。

2-② バリアフリーの推進と潤いのある生活空間の整備

公共交通機関は、移動に制約のある高齢者には、「足の確保」の観点から大きな役割を担っていることから、鉄軌道及び幹線バス路線の運行本数の増加や交通結節点の整備など公共交通の活性化やバリアフリー化を進め、利用者の利便性・快適性を高めます。また、郊外や中山間地域においても、コミュニティバスの効率的な運行や地域自主運行バスの運行支援・導入推進など、行政と地域が協働で地域特性に応じた生活交通の確保に取り組みます。

第3章 健やかな暮らしを支える心と体づくり

3-③ 高齢者及び家族介護者の心の健康づくりの推進

社会生活環境の変化や加齢に伴う不安や抑うつ、ストレスによる高齢者のうつ病等、高齢者の心の健康について地域における身近な相談支援の充実をはかり、心の健康づくりを推進します。また、要介護高齢者が増加する中、家族の介護負担感を軽減するよう相談支援や情報提供に努めます。

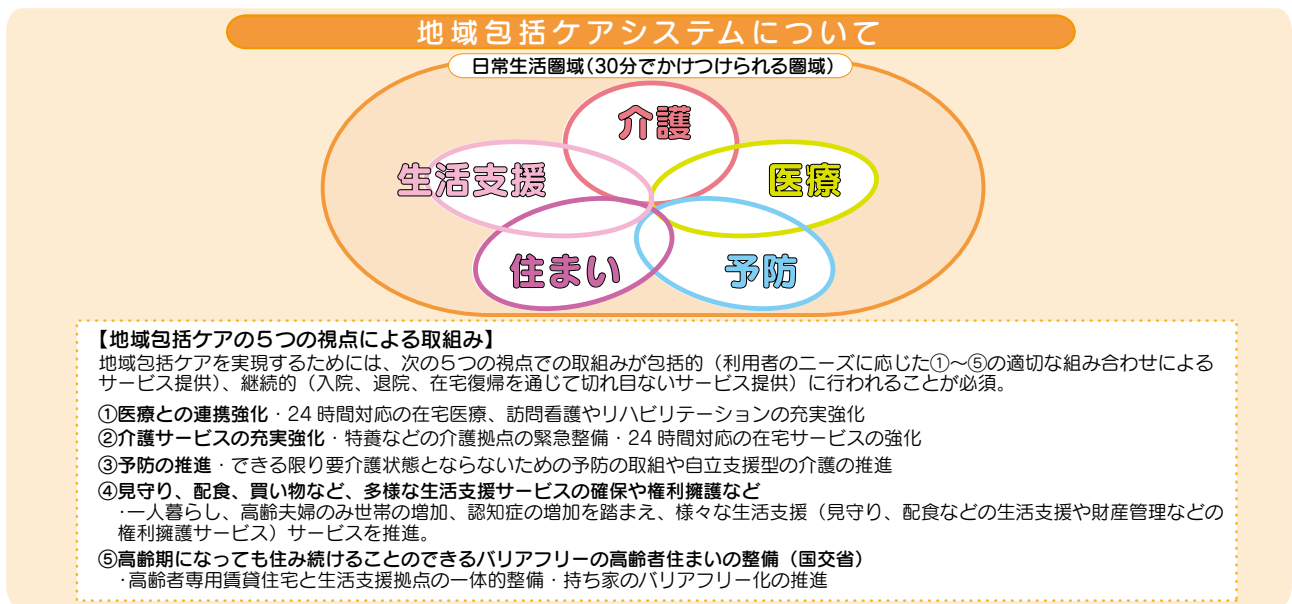
3-⑥ 地域医療の推進

高齢者の身近な場所で日常的な診療や健康管理等を行ってくれる「かかりつけ医」を持つことを推進し、高齢者の在宅での療養生活を支援するため開業医等によって設立された「とやま在宅協議会」などの取り組みに対し、市医師会等の関係団体とも連携し、支援に努めます。

第4章 一人ひとりの個性や尊厳、自立を支える地域社会づくり

4-① 地域包括ケアの推進

高齢者が要介護状態になっても可能な限り住み慣れた地域において継続して生活できるよう①医療②介護③予防④生活支援サービス⑤住まいの5つを一体化して提供していく「地域包括ケア」の考え方にに基づき、継続的な取り組みを進めます。



4-⑤ 介護サービスの基盤整備

今後、ますます増大する認知症高齢者や中重度の要介護高齢者等ができる限り住み慣れた自宅で暮らし続けることができるよう、24時間対応の定期巡回・随時対応サービスなどの新たな介護サービスの導入を図り、高齢者の在宅生活の支援に努めます。

富山市高齢者保健福祉実態調査から（平成23年1月実施）

〈調査の概要〉

高齢者保健福祉実態調査について

計画の策定にあたり、高齢者の生活環境や保健福祉等についての意識や意向等を把握し、計画の基礎資料とすることを目的とし、次のとおり実施しました。

調査地域	富山市全域
調査対象	平成22年12月1日現在、65歳以上の方で、要介護認定を受けていない方及び要支援1・2、要介護1・2の方
調査対象者数	(標本数) 3,600 標本 (無作為抽出) 200人 × 18 圏域
調査方法	郵送による配布と回収
調査期間	平成23年1月18日(火)～2月4日(金)
業務委託先	(調査実施機関) 財団法人北陸経済研究所
有効回答数	2,512 標本 (69.8%) ※前回調査 70.2%

〈調査の結果(概要)〉

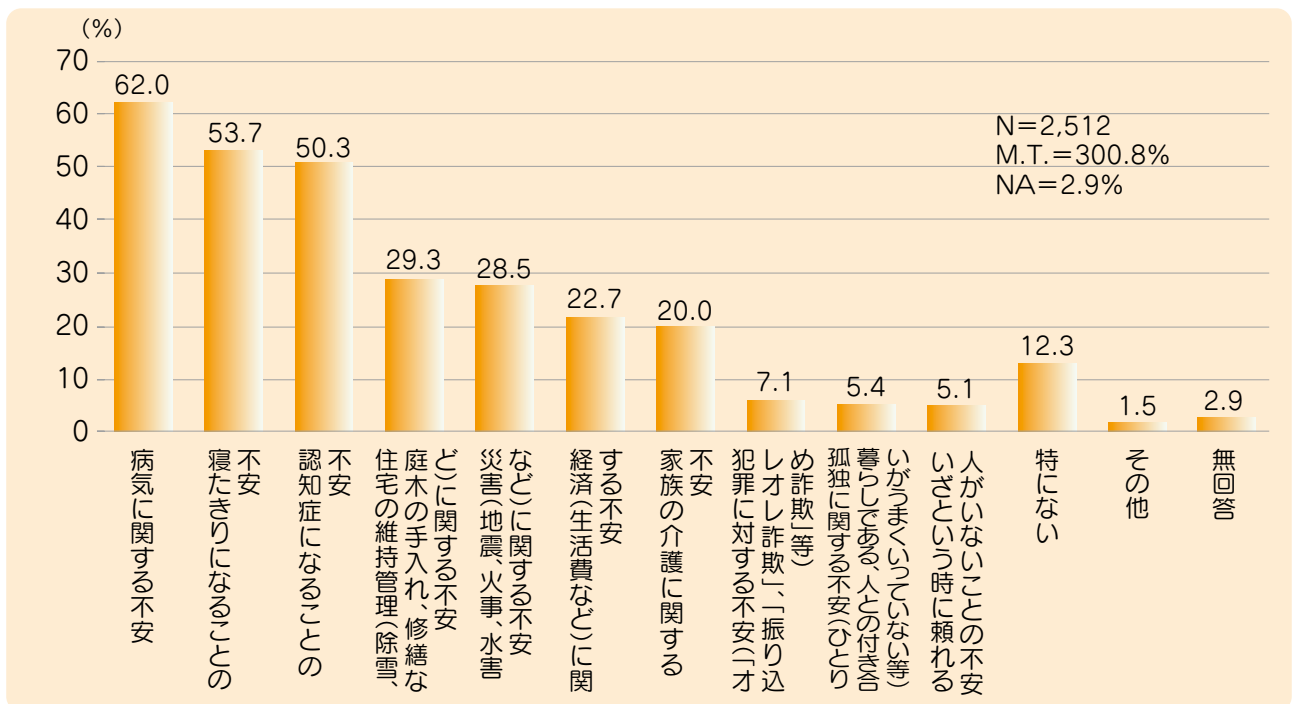
1 高齢者の不安や生きがいについて

(1) 生活の中で不安に思うこと

生活の中で不安に思うことについては、「病気に関する不安」と答えた人の割合が62.0%と最も高く、次いで「寝たきりになること」が53.7%、「認知症になること」が50.3%となっています。

年齢別にみると、「病気に関する不安」と答えた人の割合は、「70歳～74歳」が63.8%、「75歳～79歳」が66.7%と高くなっています。

また、ひとり暮らしの高齢者は全般的に不安に思う割合が高く、特に「孤独に対する不安」が22.8%と高くなっています。

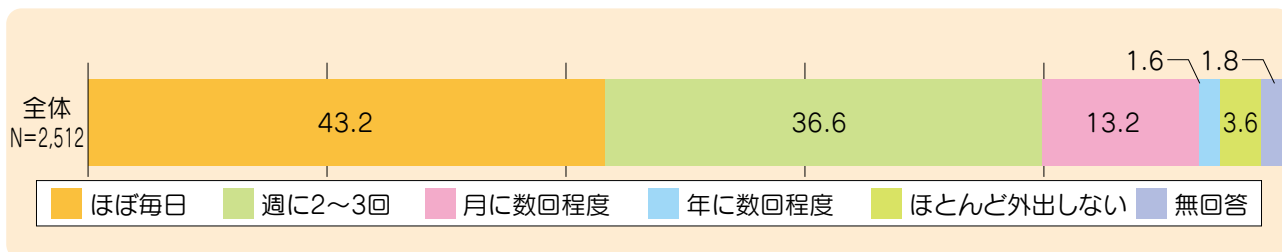


※N=回答者総数 M.T.=複数回答率 NA=回答しなかった人の率

(2) 外出の頻度

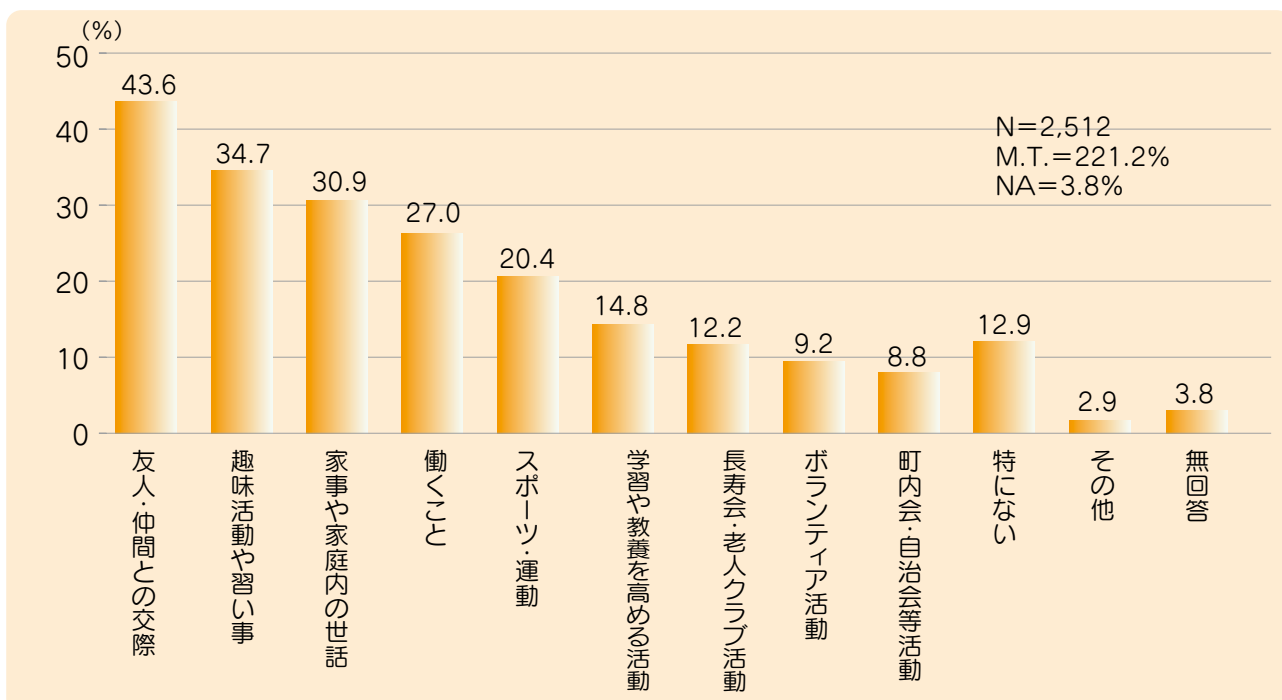
外出の頻度では、「ほぼ毎日」が43.2%、「週に2～3回」が36.6%となっており、いずれも前回調査より微増となっています。（前回調査：それぞれ43.1%、36.2%）

生活圏域別では、総曲輪等地区において、「ほぼ毎日」と回答した人が52.6%と高く、「大沢野・細入地域」が38.8%、「八尾・山田地域」が37.8%と低くなっています。



(3) 現在の生きがい、今後やってみたいこと

現在の生きがい、今後やってみたいことでは、「友人・仲間との交際」と答えた人の割合が43.6%と最も高く、次いで「趣味活動や習い事」が34.7%、「家事や家庭内の世話」が30.9%、「働くこと」が27.0%の順となっています。

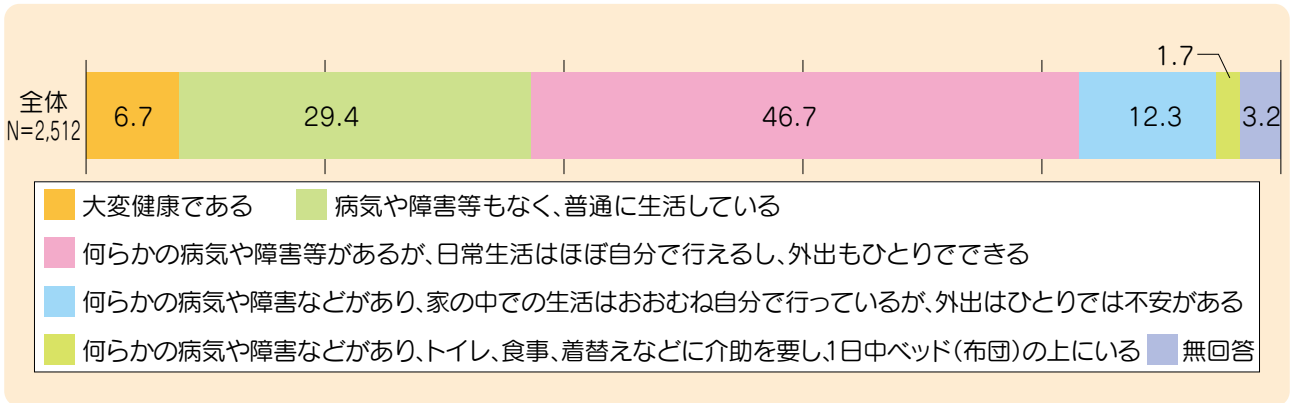


2 壮年期からの健康づくりについて

(1) 現在の健康状態

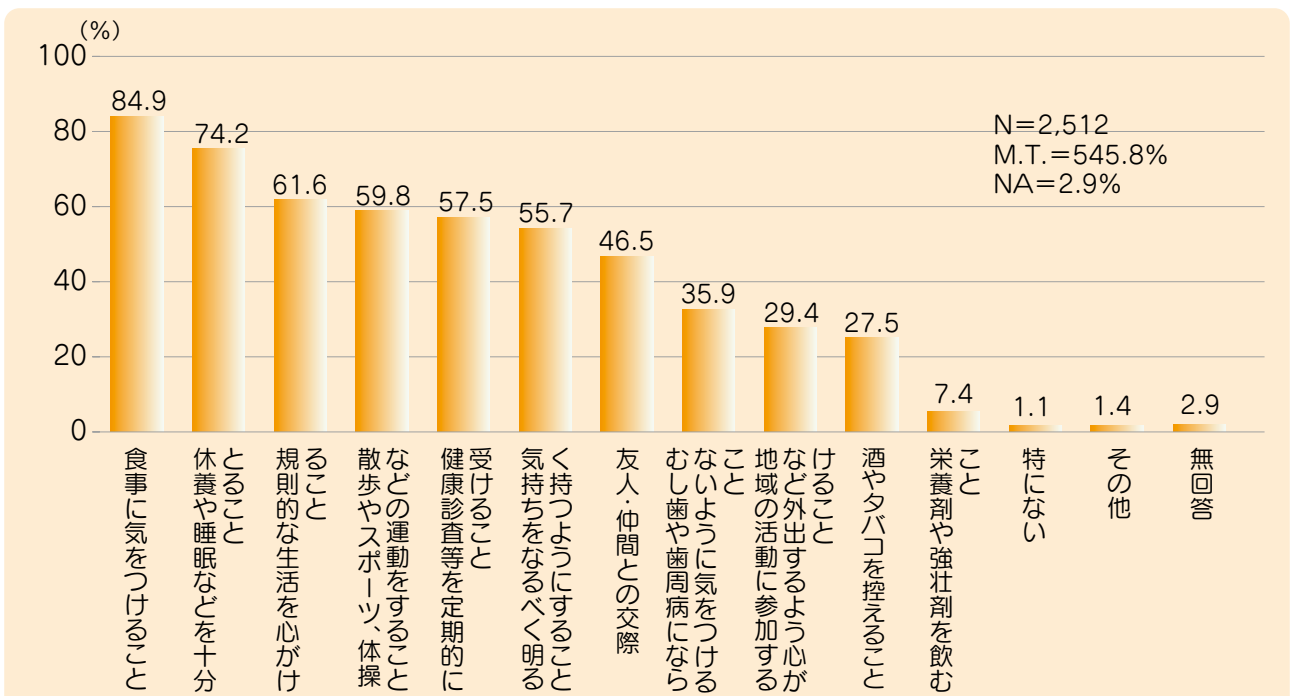
現在の健康状態について、「大変健康である」「病気や障害等もなく、普通に生活している」「何らかの病気や障害等があるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりでできる」と答えた人の割合は82.8%となっています。

これらの割合は、前期高齢者では92.7%であるが、後期高齢者では70.8%と低下している。特に90歳以上では、30.7%と急激に低下しています。



(2) 健康のために大切だと思うこと

健康のために大切だと思うことについては、「食事に気をつけること」が84.9%、「休養や睡眠などを十分とること」が74.2%、「規則的な生活を心がけること」が61.6%、「散歩やスポーツ、体操などの運動をすること」が59.8%、「健康診査等を定期的に行うこと」が57.5%、「気持ちを明るく持つこと」が55.7%、「友人・仲間との交際」が46.5%、「むし歯や歯周病にならないように気をつけること」が35.9%、「地域の活動に参加すること」が29.4%、「酒やタバコを控えること」が27.5%、「栄養剤や強壮剤を飲むこと」が7.4%、「特になし」が1.1%、「その他」が1.4%、「無回答」が2.9%の順となっています。



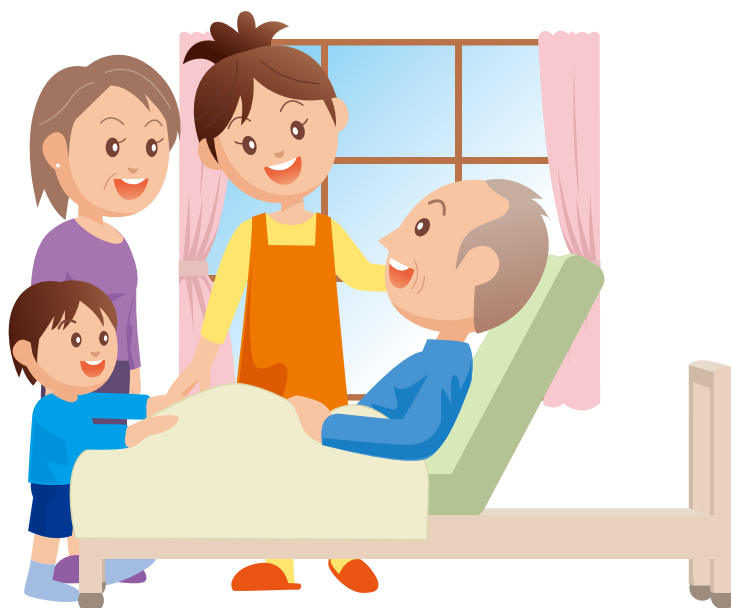
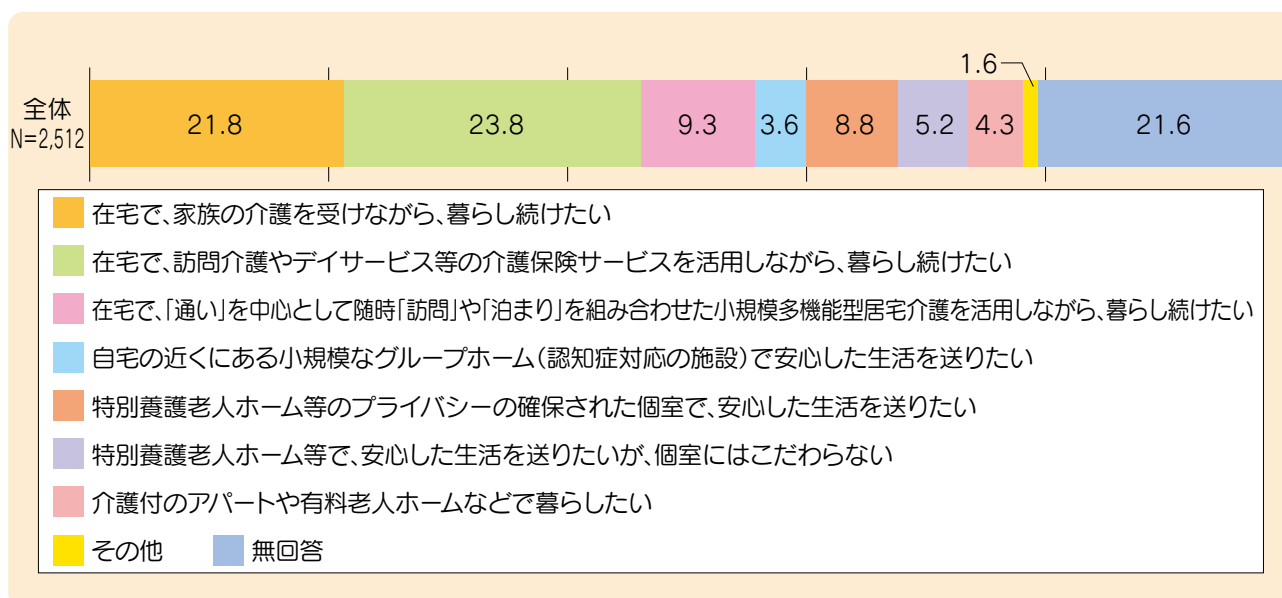
3 介護保険施策の充実について

高齢者の尊厳と自立を支えるケアを実現していくために、介護保険事業を核としながら、地域住民による多様な活動の展開を含め、高齢者ができる限り住み慣れた地域で生活を送ることができるよう積極的に取り組みます。

(1) 望ましい介護の生活形態

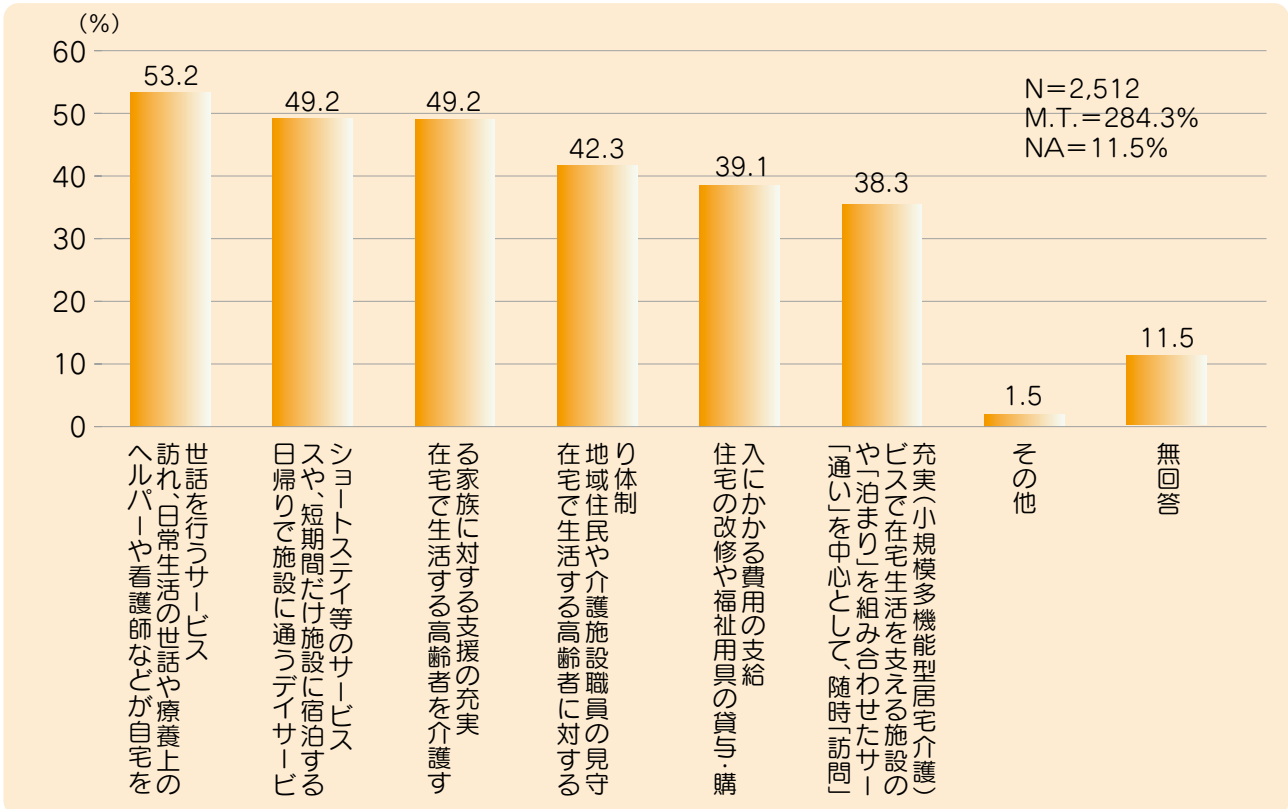
望ましい介護の生活形態については、「在宅で、家族の介護を受けながら、暮らし続けたい」「在宅で、訪問介護やデイサービス等の介護保険サービスを活用しながら暮らし続けたい」「在宅で、「通い」を中心として随時「訪問」や「泊まり」を組み合わせた小規模多機能型居宅介護を活用しながら暮らし続けたい」を合わせた、在宅での生活を希望される人の割合は、54.9%となっています。

この割合は、前回調査の64.6%から大きく低下しており、特に「在宅で、家族の介護を受けながら、暮らし続けたい」と回答した人の割合が4.9%低下しています。



(2) 介護サービスを受けながら自宅で生活するために必要なこと

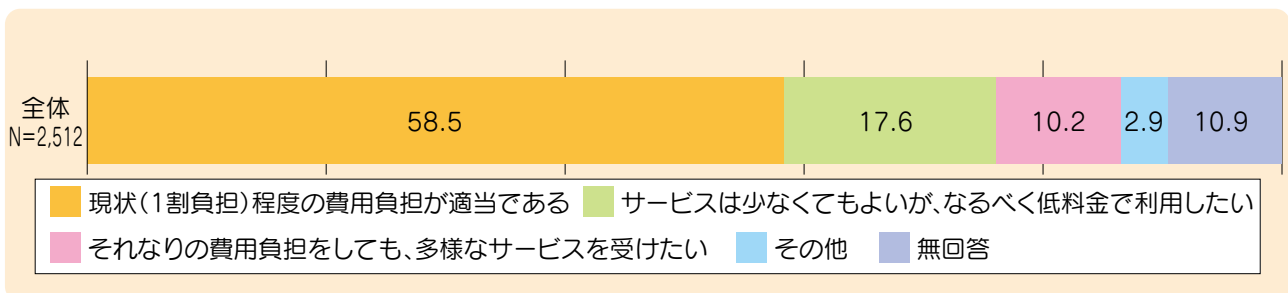
介護サービスを受けながら自宅で生活するために必要なことでは、「ヘルパーや看護師などが自宅を訪れ、日常生活の世話や療養上の世話を行うサービス」53.2%、「日帰りで施設に通うデイサービスや短期間だけ施設に宿泊するショートステイ等のサービス」及び「在宅で生活する高齢者を介護する家族に対する支援の充実」49.2%、「在宅で生活する高齢者に対する地域住民や介護施設職員の見守り体制」42.3%の順となっています。



(3) 介護保険制度における費用負担について

介護保険制度における費用負担については、「現状（1割負担）程度の費用負担が適当である」と答えた人の割合が58.5%と最も高くなっています。

次いで、「サービスは少なくともよいが、なるべく低料金で利用したい」17.6%、それなりの費用負担をしても、多様なサービスを受けたい」10.2%の順となっています。



4 高齢化等の状況について

人口が減少に転じる中、高齢者数は年々増え続け、65歳以上の高齢者が人口に占める割合（高齢化率）は、平成26年には、27.9%に達する見込みとなっています。

【総人口及び被保険者数の推移】

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総人口①	421,953人	420,016人	418,292人	416,568人	414,844人
高齢人口（65歳以上）②	105,291人	107,437人	110,178人	112,919人	115,660人
・65～74歳	52,945人	53,706人	55,658人	57,610人	59,562人
・75歳以上	52,346人	53,731人	54,520人	55,309人	56,098人
40～64歳人口	140,371人	140,547人	140,080人	139,613人	139,146人
高齢化率（②/①×100）	25.0%	25.6%	26.3%	27.1%	27.9%

※富山市総合計画（後期基本計画）の人口見通しから試算した。

【要介護支援認定者数の推移】

高齢化の進展に伴い、要介護（支援）認定者の数は、平成24年度には2万人に達する見込みです。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
総数	17,950人	19,073人	20,228人	21,416人	22,635人
要支援1	1,661人	1,745人	1,833人	1,924人	2,019人
要支援2	2,134人	2,291人	2,452人	2,616人	2,784人
要介護1	3,074人	3,290人	3,512人	3,740人	3,973人
要介護2	3,369人	3,653人	3,948人	4,254人	4,572人
要介護3	2,891人	3,003人	3,115人	3,229人	3,342人
要介護4	2,548人	2,709人	2,877人	3,053人	3,235人
要介護5	2,273人	2,382人	2,491人	2,600人	2,710人

【認知症高齢者数の推移】

平成22年10月1日現在、市内の認知症高齢者は4,526人（男性1,532人、女性2,994人）で、うち738人が独居世帯、921人が高齢者二人暮らし世帯となっています。国の試算では、認知症高齢者は25年後に、現在の1.8倍に増加すると見込まれています。